

茨城県原子力安全対策委員会(令和6年度第1回)資料1に係るコメント対応表

No	当日資料 の該当 ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
1	p38	年に1回、停電検査を実施するとのことだが、保安規定はどのような取り決めになっているか。	安部 臨時委員	原子力施設については保安規定に定めて、点検計画に基づき周期的に点検している	
2		社員への電気保安の教育は行っているか。	安部 臨時委員	8月が電気使用安全月間なので、その機会に電気主任技術者から社員への教育を実施している。	
3	p16	ブレーカーからの火花に関する対策として、自動点滅器の取り付けの検討はどうか。	安部 臨時委員	今年度中に対応を実施する。	
4		端子部やブレーカーなどに、熱を持つと色が変わるテープを貼ることによって、温度上昇の早期感知が可能なので検討されたい。 主要設備に関しては、定期的な更新が有効であり、また、新しい仮設を設置したとき、初期不良の観点から、1年目は1か月後ぐらいに1回、増し締めをするのも有効なので検討されたい。	安部 臨時委員	コメントを参考に防火の取り組みに取り入れていく。	
5	p12	安定器の火災の件について、安定器は古くなってくると異音がしてくるが、それに対しての対策は。	佐藤 臨時委員	球切れという観点から点検は実施しているが、異音という視点での点検は抜けていたので、今後の点検に取り入れるか検討する。	
6	p 10	埃が付着したことによる加熱や火災も想定されるが、それらの対策はどうか。	佐藤 臨時委員	今回の事象では埃がたまっているような状況は考えにくい が、埃や湿度は重要なファクターと考えられるため対応していく。	
7	p37	サーモグラフィを導入するのであれば、端子の緩みによる加熱や電線の過熱など一目瞭然なので、活用してほしい。	鈴木アド バイザー	アドバイスいただいた件は教育資料等にも反映して、今後、継続的に実施していく。	
8	p39, 40	教育について、OJTなどでベテラン社員が若手社員に知識やノウハウを教えられるような取り組みはあるのか。	鈴木アド バイザー		近年の火災事例や電気設備の基本的な点検方法（チェックの視点）等を題材とし、常に火災未然防止の意識を持てるような教育プログラムの策定を実施しているところです。
9	p16	チェックシートを用いた点検においては、形だけにならないよう、ダブルチェックを徹底するなど留意されたい。	鈴木アド バイザー	アドバイスいただいた件は教育資料等にも反映して、今後、継続的に実施していく。	
10	p8	電源コードの対策について、保護カバーはいいと思うが、テープ養生は強度的に意味がないのではないか。	田中アド バイザー	床面這わせるときは保護カバーを使用し、テープ養生は壁に這わせるときなど、固定する目的で使用する。	

No	当日資料 の該当 ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
11	p16	端子の締め付け不足に関して、緩み防止のためにスプリングワッシャーなどを使用した方が防止になるのではないかな。 また、締め付けが終わったところにはアイマークを付けて目視で分かるようにした方がよいのではないかな。	田中アドバイザー	スプリングワッシャーについては、使用できる部分については使用していく。 アイマークについては、発電設備では一部実施しているものもあるが、設備の中でも必要に応じて対応していく。	
12	p16	停電点検の際に清掃をした方がよい。	田中アドバイザー	清掃も停電点検の項目に含まれている。	
13	p26	システミックアプローチについて、組織から改善を人・技術につなげる事が重要だと考える。相関図をもう少し深堀りしたほうが良い。 トップもしくは組織がどのようにヒューマンとテクノロジーを統治していくか、フィードバックをかけていくかといった点で分析結果を展開してほしい。	岡本委員	まだ新しい取り組みであるため、分析結果が分かりやすく伝わるよう工夫していく。	資料 1 及び資料 2 の p10 に「※本相関図については、後段で立案する取り組み強化策の実効性確認結果を踏まえて立ち戻り見直していく。」と追記。
14		協力会社との連携が重要であるので、協力会社の社員の意識改革もお願いしたい。	岡本委員	委員指摘のとおりと考えており、協力会社にCRの作成を奨励する活動を実施している。今後も活動を強化して、発電所の安全性を高めていきたい。	
15		情報公開をより積極的にしていくことが重要である。	岡本委員	他の電力会社の状況を踏まえ、積極的な情報公開について前向きに検討を進めていきたい。	
16		リスク低減策では、工学的な対策を優先的に行い、次に管理的な対策を行うこととされている。今回の対策は、管理的対策が多い印象であり、ハード的な対策をまず考えてもらいたい。	熊崎委員		特定の原因が認められたもの（圧縮機端子台, 蛍光灯）についてはハード対策（代替品への交換または使用停止措置）を講じました。その他、一般製品の使用等に問題があったものについては主に管理的対策を講じることとしています。
17		変更管理の仕組みも重要であり、何かを変えるときにリスクアセスメントを実施する仕組みが必要なのではないかな。	熊崎委員		リスクマネジメント活動として、3 H作業（初めて、ひさしぶり、変更）時には事前チェックシートによる確認を行う運用を行っています。引き続き、変更管理にあたっては十分検討して対応してまいります。
18	p12	不具合の予兆に気づいたら、そのことを情報共有できる風通しのいい組織を目指してほしい。	熊崎委員	協力会社から情報が上がってくるような状況になってきているので、さらに風通しがいい職場を目指したい。	
19	p34	通報及び公表に至るプロセスでのスクリーニング感度の向上という意味が分かりにくい。	熊崎委員	通報や公表について、一般の方々と社内で感受性が違うため、一般の方の求める情報について感度を上げようということである。	資料を「社会的関心を考慮した事例を抽出する感度の向上」という表現に修正。
20	p26	一般論として、トラブルへの対策として点検を増やすと、それにより点検漏れの確率も上がり、それ自体が悪循環の可能性を秘めている。 現場負担が大きくなならないような対策を検討さ	出町委員	過度な負担にならないような形で発電設備や業務設備の点検ができるよう検討している。	

No	当日資料 の該当 ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
		りたい。			
21	p38	仮設設備の火災件数が増えたのは、再稼働に向けた工事により仮設設備が常設化しているということが一つの原因になっているのか。	古田委員長	委員指摘のとおり、工事により多くの仮設設備を設置しており、ほぼ常設化しているような設備がかなりある。仮設的な運用をしているといえども、ほとんど常設だという観点で点検すべきものもあったと考えているため、点検計画を見直す際に反映していく。	
22		リスクの対処に係る優先順位をどうやってつけるのか、新しい点検計画を作成する際の方針はあるか。	古田委員長	まだ固まっていないが、考え方としては、全ての機器を点検することは難しいため、ある程度期間を決めて、交換した方が効果的だと考えられる機器は、点検ではなく交換してしまうなど、なるべく作業員の手間を減らせるよう計画していきたい。	
23		リスク評価の判断基準をどうするかは非常に難しいため試行錯誤が必要だと思うが、いろいろ検討をお願いしたい。	古田委員長	トライ＆エラーを繰り返しながら良いものを作成していきたい。	